

企業名：科研製薬

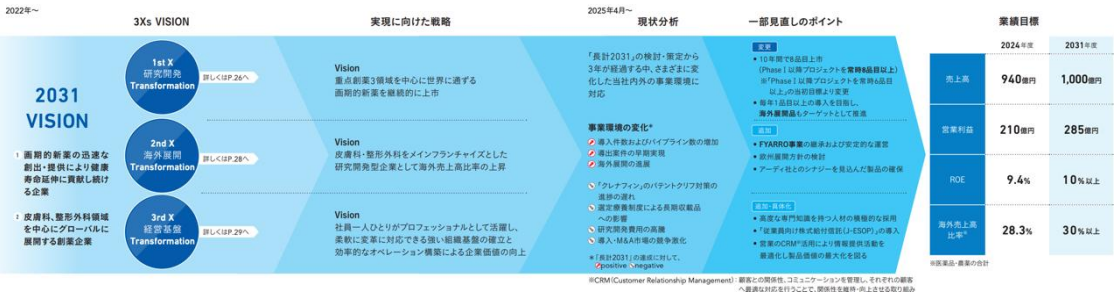
レポート名：「科研製薬株式会社統合報告書 2025」

1. この会社が目指す姿が理解できるか（将来）

科研製薬は「2031 VISION」を掲げており、「世界に通ずる画期的な新薬を継続的に創出する企業」を目指していることが明確に示されている。特に単に売上拡大を目指すのではなく、「研究開発投資の拡大」、「海外展開の強化」、「自社販売体制の構築」、「グローバルパイプラインの獲得」を通じて成長するビジョンが描かれている。

また、「長期経営計画 2031」では戦略投資額を当初の 2,000 億円から 2,600 億円へ引き上げており、経営陣が将来成長に対して強いコミットメントを持っていることが読み取れる。その中で、長期的なビジョン・戦略として「3Xs」を推し進めている。具体的には「研究開発 (Transformation)」、「海外展開 (Transformation)」、「経営基盤 (Transformation)」の 3 つであり、科研製薬の 3Xs は、単独で機能する戦略ではなく相互に関連している。研究開発によって新薬を生み出し、海外展開によって市場を拡大し、その両方を経営基盤によって支える構造となっている。つまり科研製薬は、研究開発力の強化、グローバル化、人材・組織改革を同時に進めることで、「世界に通じる創薬企業」への転換を目指していると考えられる。

これらのことから科研製薬が目指す姿は理解できると言える。



2. この会社の競争優位性が理解できるか（現在）

また、現在の競争優位性についても理解することができた。科研製薬は皮膚科領域に強みを持ち、主力製品である「クレナフィン」を中心に高い市場シェアを確立している。さらに、自社研究だけに依存せず、導入や M&A を活用しながらパイプラインを拡充している点も特徴である。実際に長期経営計画開始後の 3 年間で 7 品目を導入し、パイプライン数を 7 品目から 10 品目へ増加させているほか、米国での事業展開を見据えてアーディ社を買収して

いる。こうした取り組みから、研究開発力だけでなく事業開発力も同社の競争優位性の一つであると考えられる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

競争優位性の持続性については課題も見受けられた。報告書では主力製品であるクレナフィンの特許満了、いわゆる「パテントクリフ」が将来的なリスクとして認識されている。製薬業界では特許切れによる売上減少が避けられないため、継続的に新薬を開発・導入できるかどうか企業が価値を左右する。科研製薬はその課題を認識した上で研究開発投資や海外展開を加速しており、競争優位を維持するための取り組みを積極的に進めていることが分かった。今後、新たな優位性を創出していく上で積極的な投資が必要だと思われる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

社員やそこに関わる人々自身のスキル向上を実現できる環境であると感じた。報告書には、社内外研修の充実や優秀人材表彰制度の導入、従業員向け株式給付信託の導入など、人材育成や挑戦を促進する施策が紹介されている。また、経営陣が「失敗を恐れず挑戦する風土が醸成されてきた」と述べていることから、新たなことに挑戦しやすい組織文化が形成されつつあることが分かる。研究開発だけでなく、海外事業や事業開発にも携わる機会があり、高度な専門性を身につけられる環境であると考えられる。

従業員エンゲージメントサーベイの推移

項目	設問内容	2023年度		2024年度	
		素点平均 (最低 1、最高 4)	肯定的回答率 (回答 3or4)	素点平均 (最低 1、最高 4)	肯定的回答率 (回答 3or4)
従業員個人の仕事 に対する自発的 行動、働きがい	仕事に関する勉強や情報収集を自主的に行っている。	2.79	70.3%	2.82	71.1%
	今の仕事をしている時は、気力が充実していると感じる。	2.53	53.4%	2.55	54.2%
	仕事では、自分の強み（能力、知識、技能など）を十分に 発揮できている。	2.73	66.1%	2.75	69.2%
	自分の仕事は働きがいのあるものだと感じられる。	2.77	67.9%	2.80	68.3%
	小計（平均）	2.70	64.5%	2.73	65.7%
会社への 帰属意識	今の会社には、親しみや愛着を感じる。	2.68	64.7%	2.74	67.1%
	今の会社で働くことは、自分の人生にとってプラスになってい る。	2.81	72.7%	2.88	76.3%
	中長期的な会社の方針や目指す方向性は明確だと思った。	2.50	53.9%	2.57	57.8%
	会社の企業理念には共感できた。	2.81	75.6%	2.85	77.5%
	小計（平均）	2.70	66.7%	2.76	69.7%
従業員エンゲージ メント	合計（平均）	2.70	65.6%	2.75	67.7%

※エンゲージメントレベルの評価尺度(4段階)

とても当てはまる:4点 まあまあ当てはまる:3点 あまり当てはまらない:2点 まったく当てはまらない:1点

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

報告書全体については、企業が抱える課題を率直に開示している点が高く評価できる。クレナフィンの特許切れや研究開発費の高騰、導入競争の激化など、ネガティブな要素についても隠さず説明しており、投資家に対する誠実な姿勢が感じられた。また、投資額やパイプライン数などを具体的な数値で示しているため、戦略の進捗状況が理解しやすかった。一方で、海外展開については今後どの地域でどの製品を展開していくのかといった具体的なロードマップがやや不足しているように感じた。また、人的資本に関しても、研修時間や従業員エンゲージメントなどの定量的な指標が示されると、より説得力のある内容になると考える。

以上より、科研製薬は国内中堅製薬企業からグローバル創薬企業への転換を進めている段階にあり、研究開発と海外展開への積極的な投資によって将来的な成長を目指している企業であると理解できた。特許切れという課題を抱えながらも、新たな競争優位を創出しようとする姿勢が統合報告書全体から強く読み取ることができた。

<参考文献>

「 科 研 製 薬 株 式 会 社 コ ー ポ レ ー ト レ ポ ー ト 2025 」

https://www.kaken.co.jp/invest/library/pdf/annual_report/cr_2025.pdf

最終閲覧日：2026/06/08